

* 方円星図を貴重書庫で発見

アーカイブ新聞第852号に「東京天文台100周年記念誌資料-3-26- 星図原版献納願い」という記事を書き、この東京天文台に献納された星図の所在を探してみた。図書室に問い合わせたところ表記の「方円星図」が貴重書庫にあるとの返事もらった。

さっそく図書室に出向き、貴重書庫を見せてもらおうと、貴重書庫には「方圓星図」と書かれた傷んだ原本のコピーに裏打ちをして表装を施したもの(写真1)と思われるものが貴重書棚に1冊、また貴重書庫の棚の「平山文庫」と書かれた書類箱に「方圓星図」と書かれた原本らしきものが1冊あった。この平山文庫の中の「方圓星図」の圓の字体は貝の上が「口」ではなく「ム」になっている(写真2)。

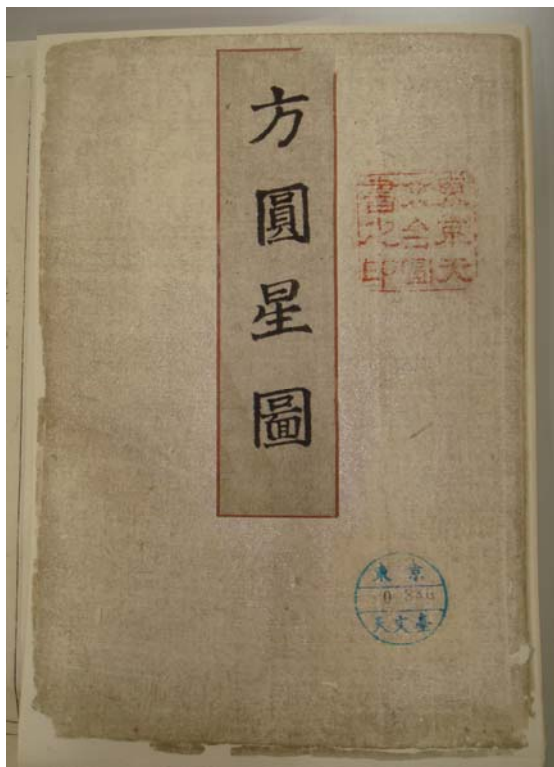


写真1



写真2

また、表紙に書かれている表題も写真のように異なっているが、中に記載された星図、文言は全く同じものと見える。表装の時、表紙の表題を新たに書いたものと思われる。

星図原版献納願にはこの星図の著者は福山藩士「石坂礫平」とあるが、この星図の最後には、「文政九年丙戌四月福山石坂常堅識」と記載されており、この星図を著したのは「石坂常堅」と思われる。昔は名前を変えることは珍しくないことだったからこれには驚くことはなからうと思う。

しかし、原本と思われるものを開いた最初の星図の上に赤い印章が2個（写真3）押されており、角印の方は全く筆者には読めないが、その左下の舟形印には「渡韻文庫」という文字が読み取れる。ということは、この方円星図は旧福山藩士族の石坂益太郎氏が寄贈したのではないのかもしれない。



写真3

平成12年3月に発行された「文部省国立天文台所蔵貴重資料展示図録」（国立天文台天文情報公開センター歴計算室・国立天文台管理部庶務課図書係編集）（写真4）の最後の頁に図61「方円星図」（部分）（写真5）が掲載されていることに気がついた。

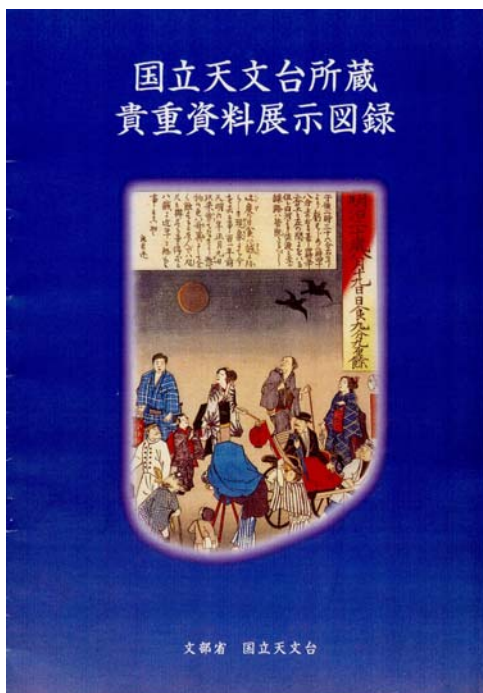


写真4

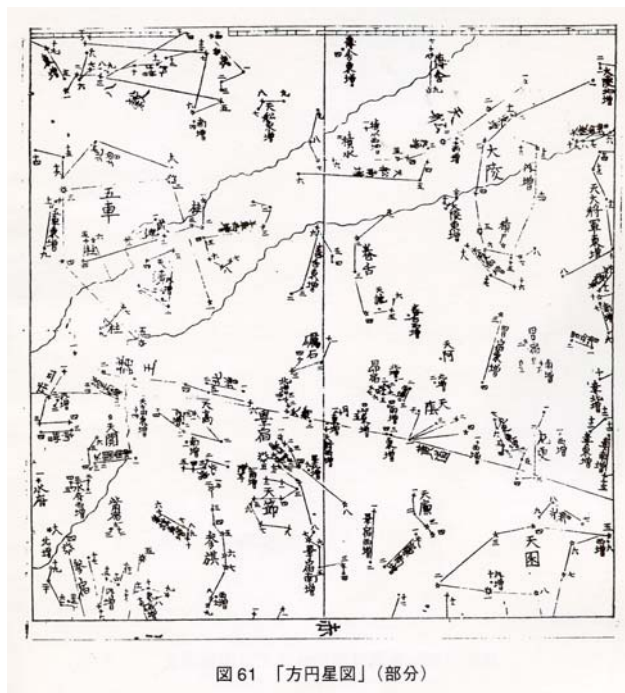


図61 「方円星図」(部分)

写真5

この星図の「方」の図は、東西 60 度、南北 60 度のものが赤道の上下に北 6 枚、南 6 枚の 12 枚が、東西南北 4 枚が見開きに見えるように畳まれている。円の図は北極から 40 度の半円が 2 枚、南極から 40 度の半円が 2 枚の 4 枚で書かれており、南天の南極部が空白に見えるが、その部分には明るい星がないためと思える。

北斗七星は「北斗」とあり、それぞれの星の名前が記載されている（写真 6）。

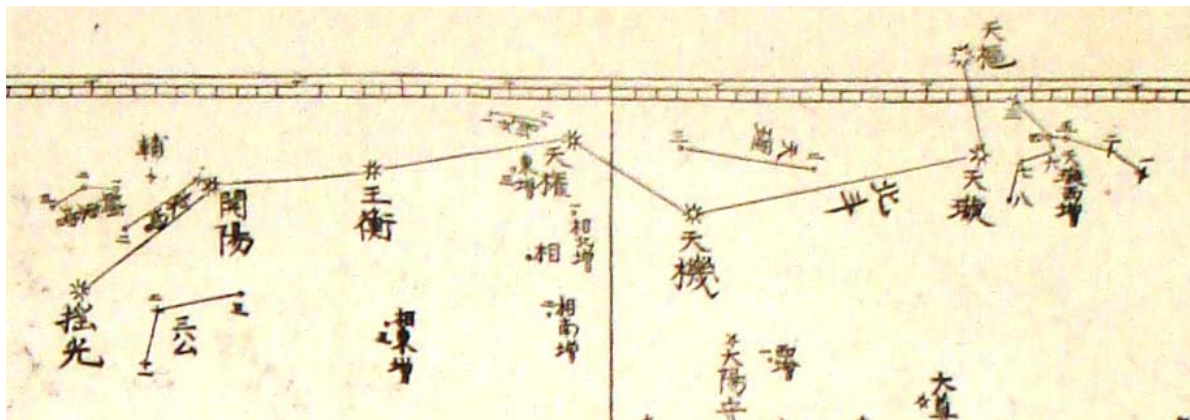


写真 6

又、Vega は織女一、白鳥座の一部は天津となっており Deneb は天津四、Altair は河鼓二となっており、夏の大三角辺りは写真 7 のようである。

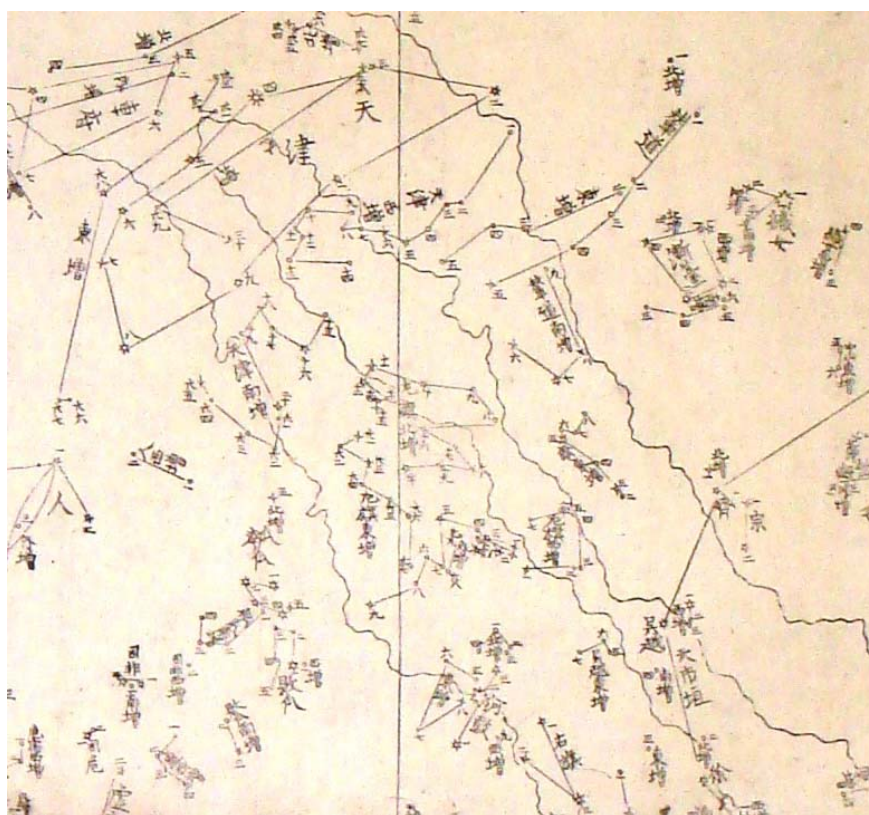


写真 7

表紙につづく見開きページを写真 8~13 に示す。

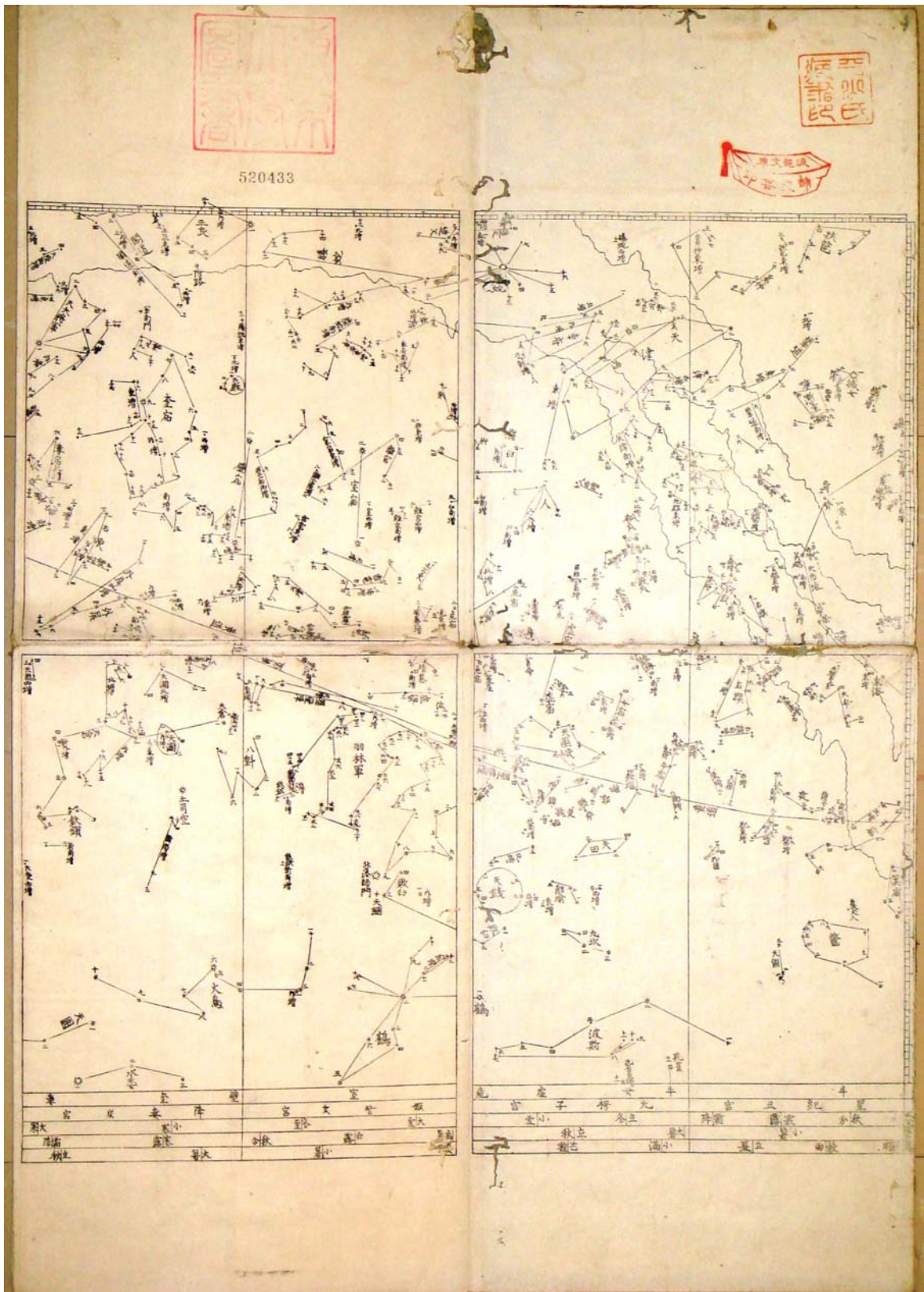


写真 8

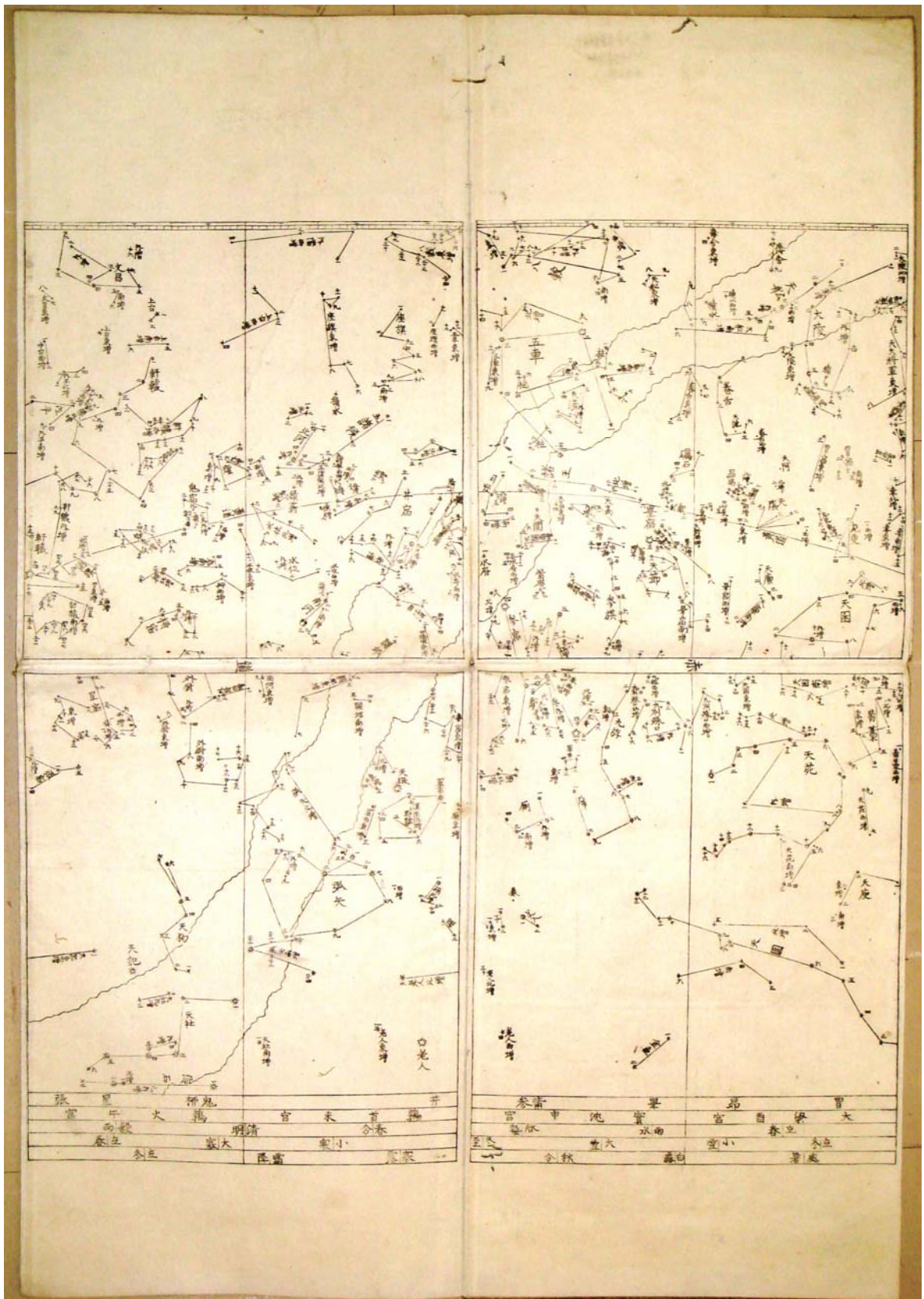


写真9

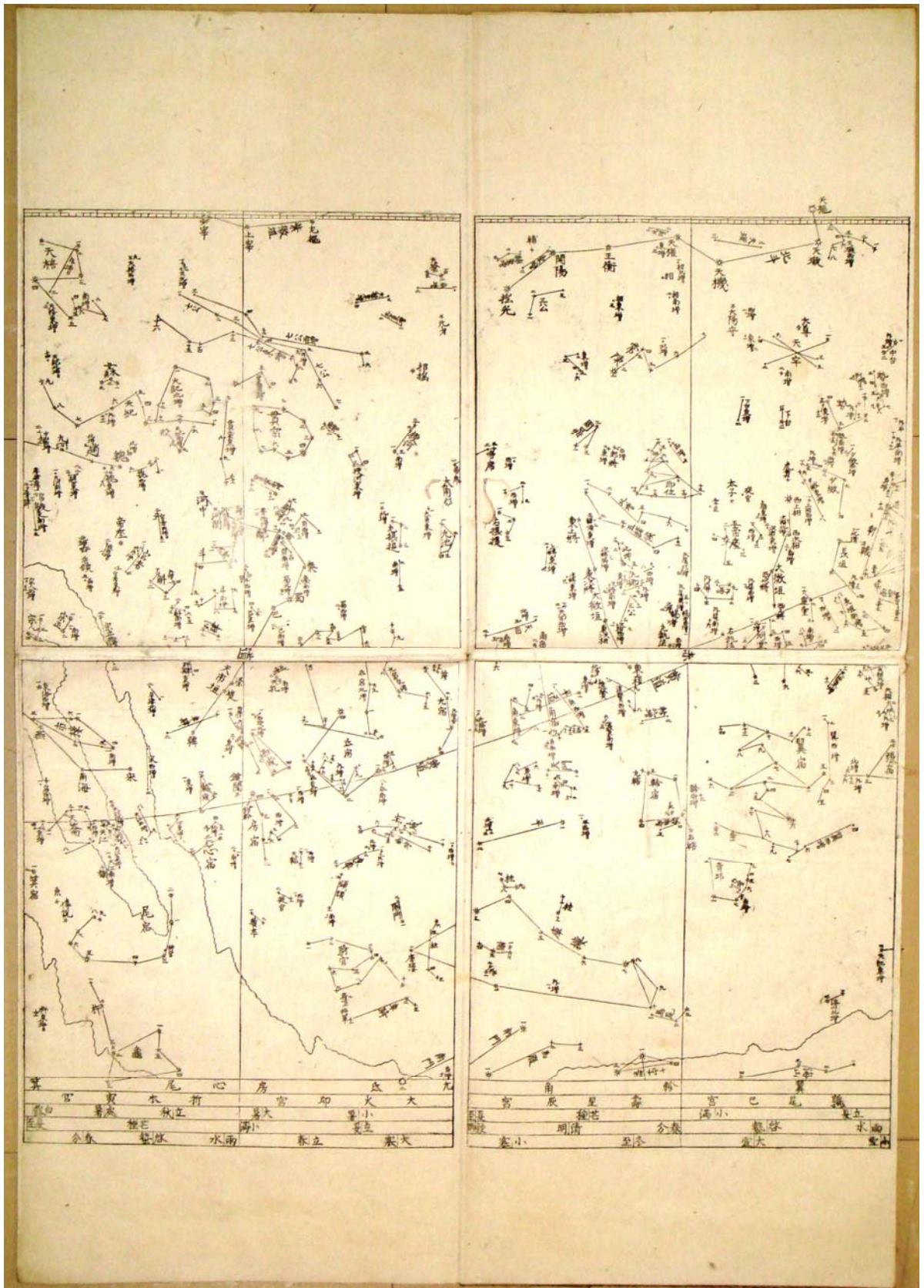


写真 10

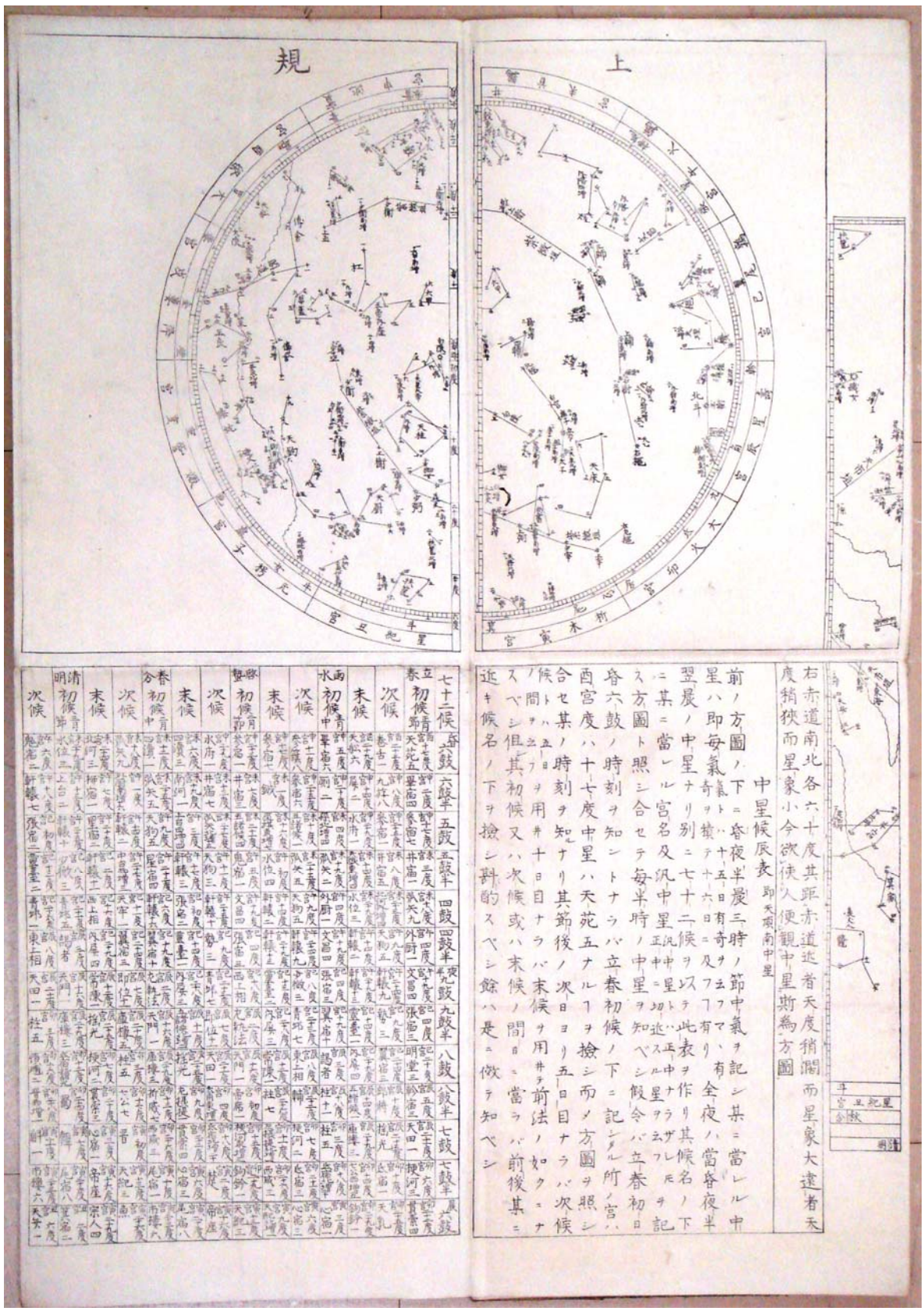


写真 11

筆者は古い文書を十分に読みこなすことが出来ない。漢文に至っては全く理解できない。この星図には南十字星も書いてあり、くじゃく座も書かれていることから石坂氏をご自身で観測して書かれた星図ではないと思われる。

文政年間と言えば、江戸時代後期のことで 1818～1829 年である。伊能忠敬が没したのが 1818 年文化 15 年は、文政元年となっている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp